

<今月の禅語>

自浄其意 (じじょうごい) <七仏通戒偈>

自ら其の意 (こころ) を浄くせよ



禅門で日常に読誦するお経の一つに「七仏通戒偈」と云う短いお経がある。

諸悪莫作 (しよあくまくさ) ・ ・ ・ ・ 諸々 (もろもろ) の悪を作 (な) すこと莫 (なか) れ

衆善奉行 (しゆぜんぶぎよう) ・ ・ ・ ・ 衆 (もろもろ) の善を奉行し

自浄其意 (じじょうごい) ・ ・ ・ ・ ・ 自ら其 (そ) の意 (こころ) を浄くせよ

是諸仏教 (ぜしよぶつきよう) ・ ・ ・ ・ 是れ諸仏の教えなり

七仏とはお釈迦さま以前の仏として

六 仏 ・ ・ 毘婆尸仏 (びばしぶつ) 、尸棄仏 (しきぶつ) 、

毘舍浮仏 (びしゃぶぶつ) 、拘留孫仏 (くるそんぶつ) 、

拘那含牟尼仏 (くながむにぶつ) 、迦葉仏 (かしょうぶつ)

のご存在があり、その六仏に釈迦牟尼仏 (しゃかむにぶつ) を含めて過去七仏という。この七仏を通じて変わることのない戒めとしてあるのが「七仏通戒偈」なのである。その意味は「悪いことをするな、善きことをしなさい、そして意 (こころ) をきれいにする。是れが諸 (もろもろ) の仏の教えである」といたって簡単な内容でしかない。だが、その実践となると容易ではない。

中国の詩人で有名な白樂天は若いとき禅道を求め、荊州の山林で鳥巢 (ちょうか)

禅師と呼ばれ樹の上で仙人のような生活をする道林和尚を訪ねた。早速、道林に



「仏教の根本の教えとは何か」と質問した。道林和尚は即座に「諸悪莫作、衆善奉行」即ち、悪いことをするな、善きことをせよと答えたのだった。

あまりにも平凡な答えに白楽天はあきれて「そんなことは三歳の童子でも知っていることではありませんか、馬鹿にしないでください」反発したところ「三歳の童子でも知っているであろうが、八十の老人でさえ行うことは難し」と平然と答えたという。

その道林和尚の真意を知った白楽天はすっかり参ってしまい、道林和尚のもとで修行したという。

つまり、仏の教えとは悪い行いをなさず、善い行いをして心浄らかにして悟りを開き、仏

(真理)の世界にいたるための道であり、是れが仏教なのだ。



ところが、仏教で言う、善いこと悪いこととは単に法律に触れるとか道徳に反するというだけではない。仏教で言う悪とは悪業のことで、身・口・意の三業(さんごう)に代表される。身によって造られる悪しき行為(身業)として

- ① 殺生(せっしょう) = 生き物をみだりに殺す
- ② 偷盗(ちゅうとう) = 他人のものを盗む
- ③ 邪淫(じゃいん) = 邪な性交がある。言葉による悪しき行為(口業)として
- ④ 悪口(あくく) = 悪口をいい、人をののしる
- ⑤ 両舌(りょうぜつ) = 二枚舌を使い、人をあざむく
- ⑥ 綺語(きご) = 言葉を飾り駄言を弄する
- ⑦ 妄語(もうご) = 嘘、偽りをいうがあり、

次に意(こころ)による悪しき行為(意業)に

- ⑧ 慳貪(けんどん) = むさぼりのこころ

⑨ 瞋恚 (しんに) = 怒りのところ

⑩ 邪見 (じゃけん) = よこしまな考え、想念がある。

以上、身と口と意のそれぞれの業を合わせて十悪というのだが、人はよく不運な目にあったり、不幸が続くと「私は何も悪いことはしていないのにどうして・・・」と云う愚痴や不平を並べ嘆くことがある。果たして身口意の三業に照らし「私は何も悪いことをしていない」と云いきれるだろうか。私たちは過去世より知らず知らずに造ってきた諸々の悪業を懺悔すると共に、新たに悪業を重ねないこと（諸悪莫作）であり、そのためにはより多くの善行功德を積む（衆善奉行）ことである。そのためにはやはり自らの信仰を深め仏の力を頂きながら六根（眼・耳・鼻・舌・身・意）の清浄をはかる（自浄其意）自からの精進が大事なのだ。



[戻る](#)